

もっと「ひまわり8」画像 その3

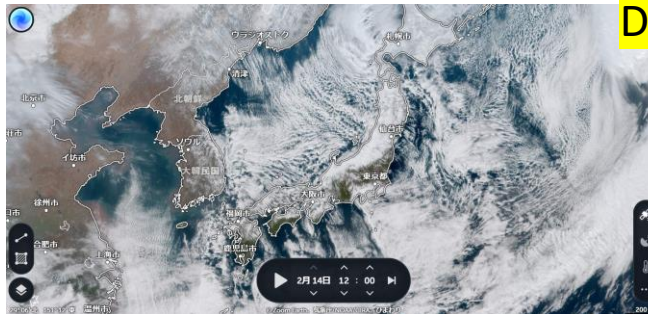
季節は冬から春に向かっています。ここ2週間は、この時期らしく寒暖差が大きくなるとの予報も聞きます。天気予報のひまわり9の観測画像に目が向きます。YACかわら版では、「もっとひまわり8画像」を2回お届けしました。放送のひまわり観測画像は、生の画像を加工したものが多くなっています。白黒の情報から、カラフルな情報豊かなものに変化もしています。

ひまわり リアルタイムWeb **A**

- Himawari-8 - NICT



<https://himawari8.nict.go.jp/ja/himawari8-image.htm>

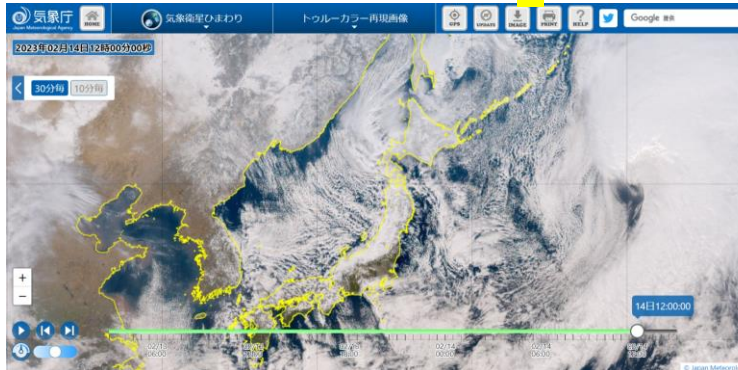


<https://zoom.earth/>

Webサイトによって、同じ素材をつかっても伝え方が異なります。ABCはこれまでも紹介したものです。DEは初めてです。Fは風情報です。全て2月14日12:00です。それぞれ持ち味があります。みなさんはどう感じていますか。

気象庁 | 気象衛星ひまわり **B**

<https://www.jma.go.jp/bosai/map>



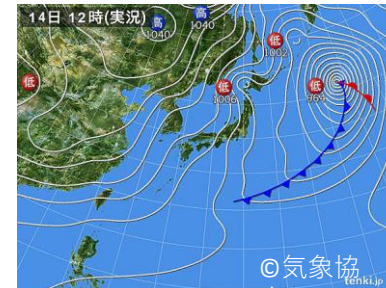
<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#5///&elem=color&contents=himawari>

大きな氷晶を伴う厚い上層雲→■ 薄い巻雲→■ 太平洋上の■の雲→小さな氷晶を含む上層雲であろうか。

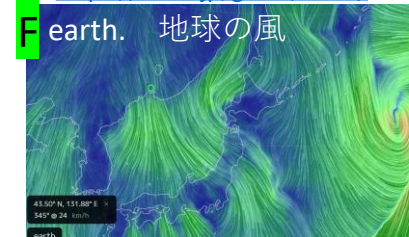
E→ひまわり観測画像を鮮明に表示してくれます。

*世界各地をカバーする他の気象衛星画像も表示します

F→ ひまわりデータに雲光学的厚さ、雲タイプ等のデータが探れます。

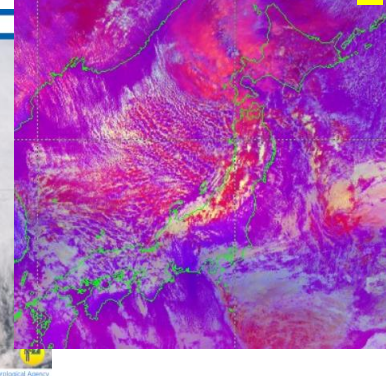


<https://tenki.jp/guide/chart/>

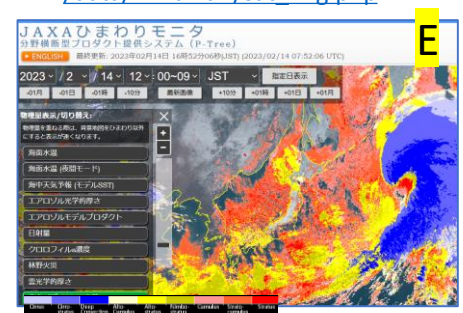


<https://earth.nullschool.net/>

Himawari Real-Time Image **C**



https://www.data.jma.go.jp/mscweb/data/himawari/sat_img.php



E

https://www.eorc.jaxa.jp/ptree/index_j.html

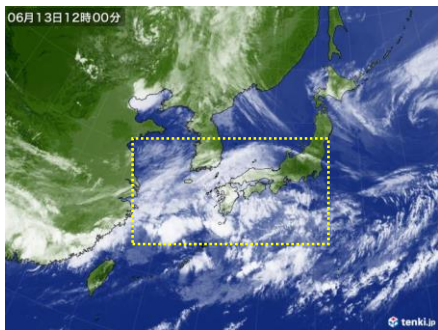
A→使い込むと、日本周辺からひまわり8-9が観測している全球データを多様に活用できる

B→気象庁の防災関係情報を集約しているサイトに位置づいている。鮮明なトゥルーカラー再現画像に海岸線が入り利用が便利。

C→色合成など経験した後は魅力的なサイト。英文説明。データ処理が過去24時間。時間表示は世界標準時。Cは「日中対流雲」RGBで、大陸からの強い風による雲の動きを示しています。

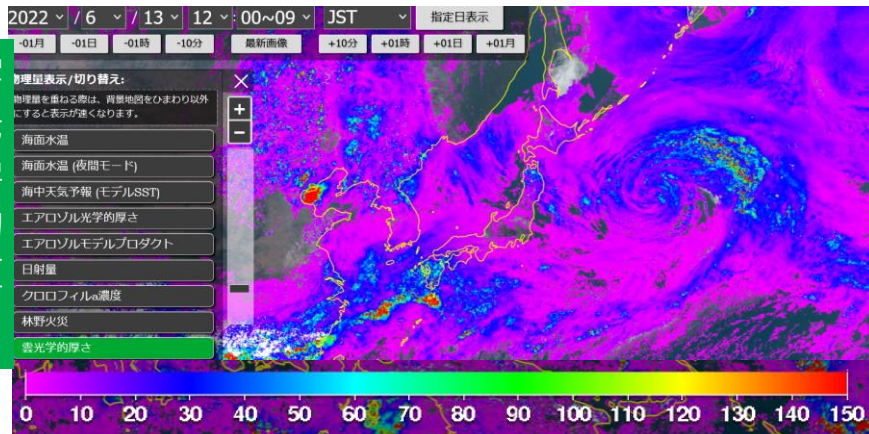
JAXAひまわりモニターの魅力紹介

6月13日12:00

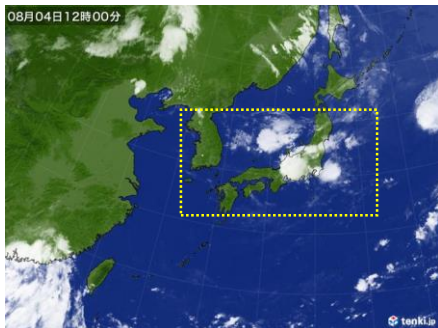


梅雨の頃の雲が意外と厚くないことに驚きます。住んでいる場所の空の雲と比べてみたいですね。台風や入道雲など調べてみたいですね。

雲光学的厚さ

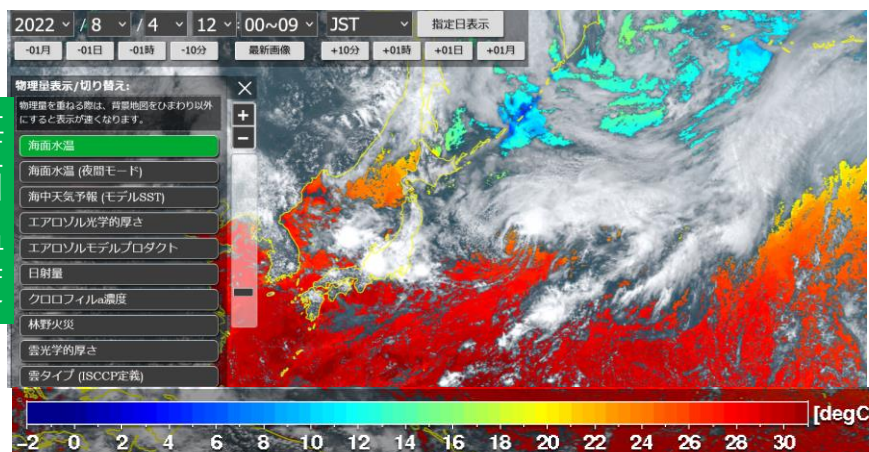


8月4日12:00

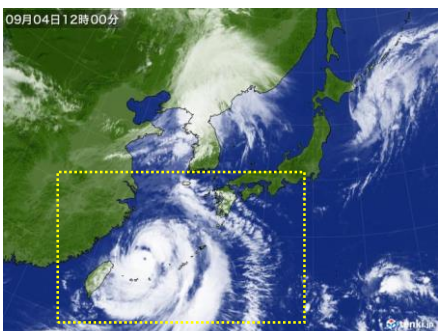


海面の温度は、天気予報でも紹介されることがありますね。雲のない場所の海面温度を台風の通過前後、前線をはさんだ両面等比較してみたいくなります。

海面温度

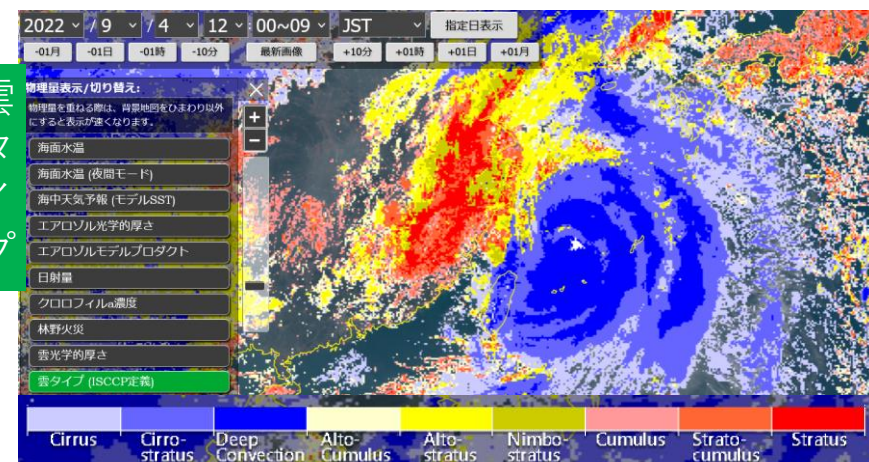


9月4日12:00



雲の高さと光学的な厚さをもとに、9つのタイプに分けています。この分類については、次のページで詳しく説明しています。

雲タイプ



12:00の雲画像は気象協会webサイト利用

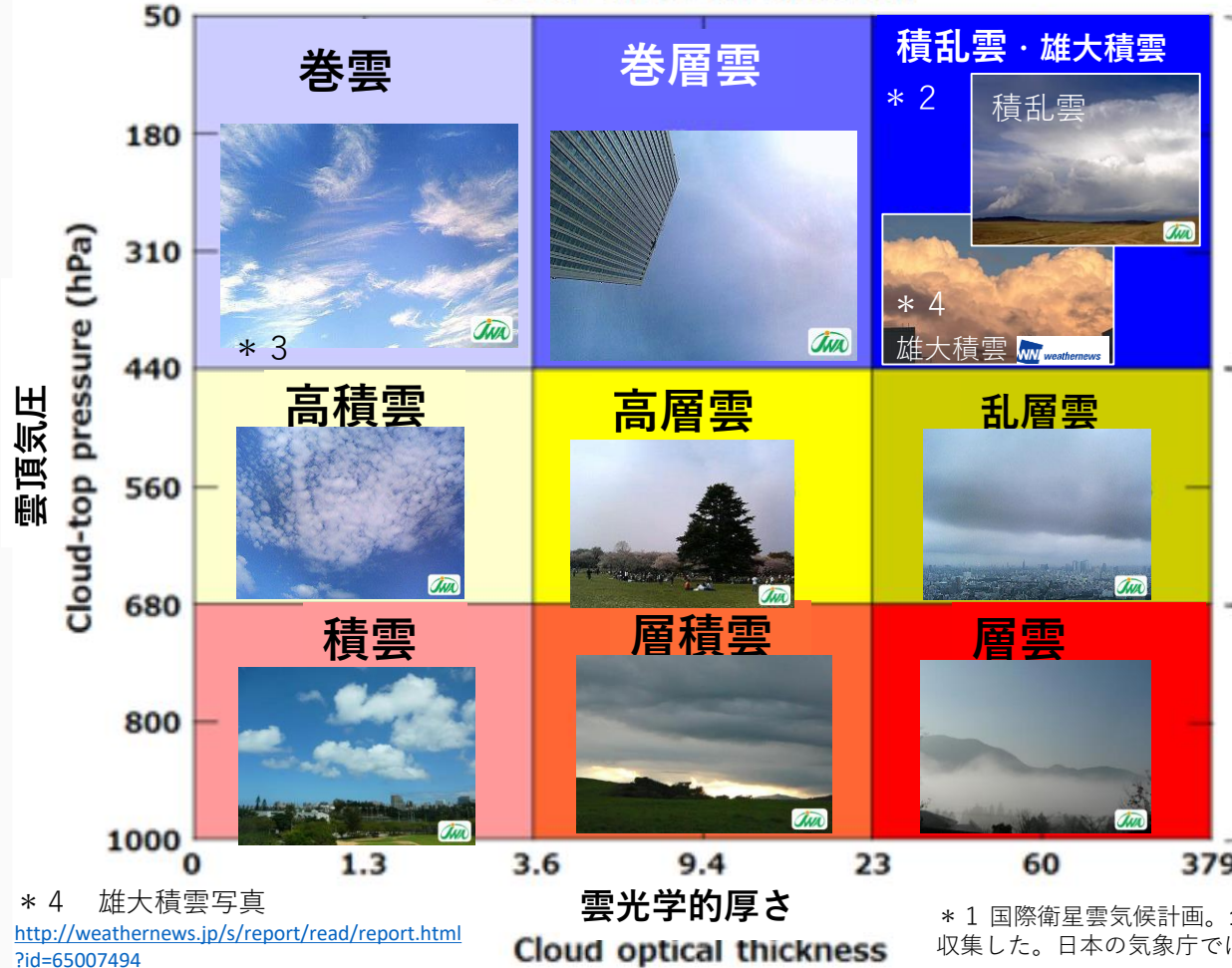
雲タイプ (ISCCP定義) 補足

<参考資料>

ユーザーガイドに記載されている雲タイプ表を加工しました。

時間分解能 10分(レベル2)
空間分解能 5km (ピクセル数: 2401、ライン数: 2401)

ISCCP 雲分類 * 1
ISCCP Cloud Classification



雲の形、できる高さ、いろいろ。



<https://www.hitachi.co.jp/kids/kinopon/kinopontown/sky/03/page2.html>

* 3 例示写真 (* 4 を除く) は日本気象協会のクレジットで、「日立キッズ 雲の形、できる高さ、いろいろ」サイトに紹介されているものです。

<https://www.hitachi.co.jp/kids/kinopon/kinopontown/sky/03/page2.html>

* 2 原典では「Deep Convection」(深い対流)としています。雲頂高度が高く、光学的に厚い雲です。積乱雲では雷が確認され、雄大積雲では雷が確認されません。

* 1 国際衛星雲気候計画。1983年から5年間に7個の気象衛星で気候予測の基礎資料を収集した。日本の気象庁では、衛星画像による雲分類は7種類に分類しています。

マニュアルには次のようにかいてあります

雲タイプは、ISCCP (International Satellite Cloud Climatology Project) の雲分類方法に基づいたもので、ひまわりから推定した雲光学的厚さと雲頂気圧を用いて、表のように分類されています。